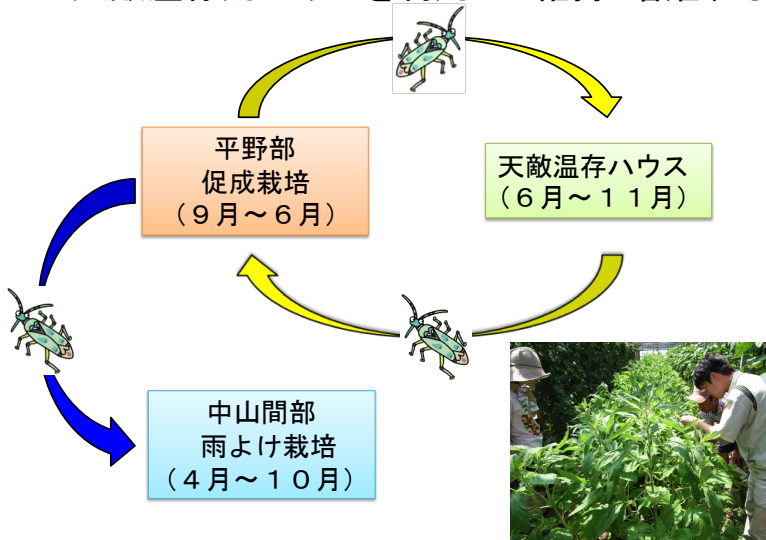


野菜の施設間で土着天敵をリレーする体系（高知県）

《タバコカスミカメの集落レベルでの効率的な利用》

ポイント

- 作型が異なる地域間でリレーする。
- 天敵温存用ハウスを利用して維持・増殖する。



タバコカスミカメ

アザミウマ類、コナジラミ防除に有効な土着天敵です。雑食性であり、植物も餌として利用できることから、ゴマのみでも容易に増殖可能です。

平野部の促成栽培地域では、天敵温存用ハウスを利用してタバコカスミカメを維持・増殖します。中山間部の雨よけ栽培地域では、栽培終了時の促成栽培ハウス内からタバコカスミカメをリレーして利用します。

産地間リレー

天敵利用が慣行技術となっている促成ナスの栽培終期には、圃場内に多くのタバコカスミカメの生息が認められます。これらを雨よけ栽培果菜類栽培地域へリレーすることにより効率的な天敵の確保が可能となります。

表1の例では約49,000～73,000頭/10aの生息が確認でき、これらから算出すれば、産地の規模から確保可能なタバコカスミカメ数がある程度推定できます。

圃場での採集には吸虫管(図1)を用います。表2の例では30分間・1人あたりで約160頭のタバコカスミカメを採集できており(40代男女3名の平均)、これらを採集時間の目安とすることができます。

表1 促成ナス圃場内での栽培終期のタバコカスミカメの生息数

	圃場A	圃場B	圃場C
栽培面積 (m ²)	1,000	1,600	1,000
放飼頭数	1,500	500	500
放飼時期	10月	9月	11月
10a当たりの推定生息数 (頭)	73,222	48,686	59,741

注 1) ナスの栽培期間は2011年9月～2012年6月で、6月中旬に調査した。

表2 タバコカスミカメの平均採集頭数

	成虫	幼虫	合計
40代男性 1	99.5	121.0	220.5
40代男性 2	24.5	112.0	136.5
40代女性	23.5	93.0	116.5
平均	49.2	108.7	157.8

注 1) 採集頭数は30分あたりを示す。

2) 調査時期は表1に同じ。



図1 天敵採集用吸虫管

天敵温存用ハウス

天敵温存用ハウス内に6月中旬にゴマを定植し、増殖源となるタバコカスミカメを6月下旬に放飼した後、7月上旬、8月下旬に順次ゴマを追加定植することで、促成栽培での導入時期にあたる8月下旬から10月上旬にかけて十分量のタバコカスミカメが確保できます(図2の例では面積40㎡天敵温存用ハウスで約13,000~32,000頭)。

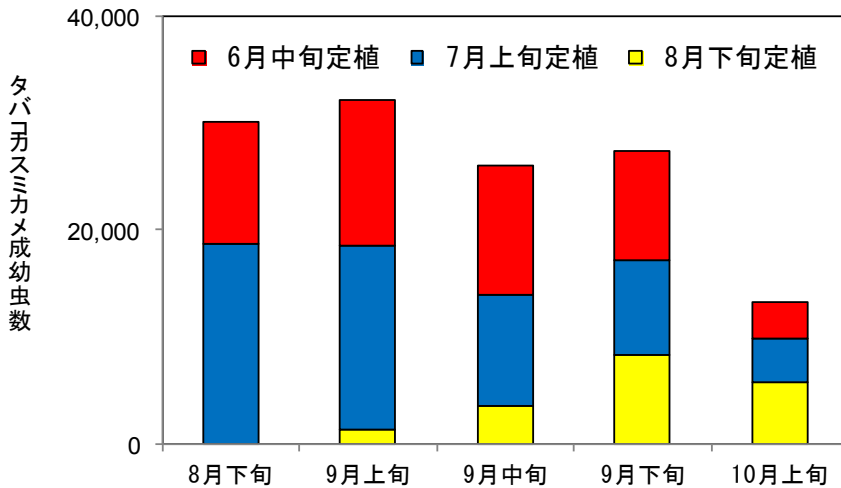


図2 天敵温存用ハウス内におけるタバコカスミカメ数の推移

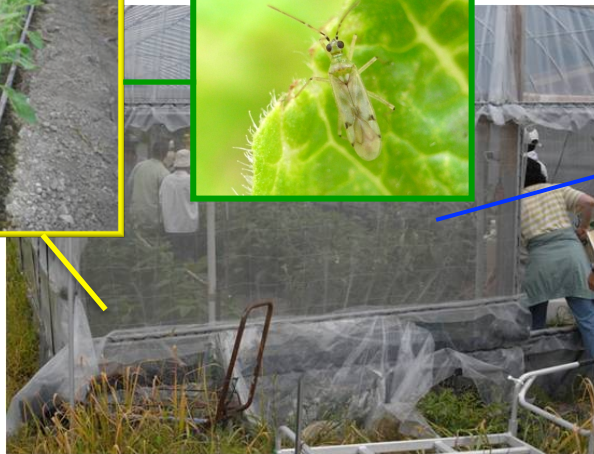
- 注 1) タバコカスミカメ数はゴマ180株あたりを示す。
2) 6月下旬に温存ハウス内(面積40㎡)にタバコカスミカメ成虫200頭を放飼した。

露地栽培でも6月~8月の高温時であれば同様の作付体系でタバコカスミカメの確保が可能です。しかし、降雨や台風など気象条件の影響を受けやすく、十分な個体数を確保できないことも考えられますので、できるだけ天敵温存用ハウスを利用します。

ハウスをグループで共同管理することでコスト削減が可能です。



ゴマの株間は20cm、条間は30cm程度とし、かん水過多に注意します。



タバコカスミカメの野外への飛び出しやミナミアオカメムシなどの害虫カメムシ類の侵入を防ぐために1mm目合い以下の防虫ネットを展張します

図3 天敵温存用ハウス

実践農家の声

促成ナスの生産者です。タバコカスミカメをスリップス防除に利用し始めて4作目になりますが、害虫防除が本当に楽になりました。タバコカスミカメの増殖は稲の育苗用ハウスを利用して行っています。昨夏は雨が多くてゴマの生育が悪かったため、露地でタバコカスミカメを増やした部会員からは十分なタバコカスミカメを確保できなかったという声も聞きましたが、ハウス内で温存したおかげで、十分量を確保することができました。現在は個人での管理ですが、今後は省力化を目指し、部会内での共同管理を進めたいと考えています。